

八尾の自分らしい輝き方応援プロジェクト【大阪府八尾市】

地域の実情と課題

- ・年齢別労働力比率は全国に比べて子育て期の低下が大きく、その後の回復も鈍くなっている。
- ・20～30歳代の女性の約30%が「就労したいと考えているが、就労していない」状況で、そのうち31%が「家庭生活との両立への不安」を感じている。
- ・性別にかかわらず自分らしく活動できる環境づくり、意識の醸成が求められる。

事業の特徴

- ・自分のショップを持ちたい人のための支援事業(レディースあきんど塾): 起業に際し必要となる心構えやスキルを学ぶだけでなく、参加者同士の交流により、互いに励まし合い、実現に向けて踏み出す契機とした。
- ・チャレンジしたい女性が既に起業している女性のもとで実際の業務を体験することで、新たな学びと人のつながりを生み出した。
- ・大学生をファシリテーターとする中学生、高校生同士のワークショップを通じて、より活発な意見交換が実現した。

事業の効果

- ・レディースあきんど塾: 参加者21名。講座終了後、参加者による活動グループが結成された。
- ・オトナのためのインターンシップ事業: 参加者3名、受入起業家登録者7名。受入起業家についてホームページで紹介。
- ・若者ワークショップ: 参加者25名(中学生13名、高校生12名) 取り組み成果をリーフレットにまとめたことで、若い世代の男女共同参画についての意識の醸成を図るとともに、今後の施策展開に若者の視点を活かすことができる。

目的・目標

- ・起業支援などを通して、一人ひとりが自分らしく輝くための活動につなげるだけでなく、起業の実現可能性を高める。
- ・大学との連携により、若い世代が男女共同参画の意識を醸成するきっかけとする。
- ・女性が活躍しやすい環境づくりが進んだと思う市民の割合(目標40% 実績値37%)

連携団体

【八尾市内の起業家】チャレンジしたいと考える女性を受け入れ、インターンシップを実施。
【国立大学法人大阪教育大学】若者ワークショップの実施。
【大阪府、東大阪市、柏原市】若者ワークショップの成果をまとめたリーフレットを配布することで、広域的に男女共同参画・女性活躍の機運醸成を図った。

今後の課題

- ・講座(レディースあきんど塾)受講生による活動グループが結成されたことで、刺激し合い、互いの活動を促進し合う相乗効果が期待できる。ネットワークが今後継続し、自走できるような支援が必要である。
- ・若い世代に対する取り組みは、単年度で終わるものではなく、視点や形式を変えながら継続して行う必要がある。

八尾の自分らしい輝き方応援プロジェクト

自分のショップを持ちたい人のための支援事業 (レディースあきんど塾)

- 対象者: 自分の特技を活かして起業や出店をしたい女性
- 概要: 実際に出店するにあたり、必要となる心構えやスキルを学び、交流することにより、互いに励まし合い、実現に向けて踏み出す契機とした。
- 受講者数: 21名(のべ参加人数: 93名)
- 内容
 - 10月30日 起業・開業とお金
 - 11月6日 起業に向けた販売計画やマーケティング
 - 11月13日 事業計画と収支計画書の作成
 - 11月27日 プレゼンテーション
 - 12月11日 交流会
- 効果: 終了後、参加者による活動グループが結成された。



オトナのためのインターンシップ事業

- 対象者: 何かチャレンジしたいが一歩踏み出すのをためらっている女性と、既に起業し活躍している女性
- 概要: チャレンジしたい女性が実際の業務を体験することで、今後の自分の活動の姿を具体的に思い描き、実現につなげる契機とする。また、すでに活躍している女性の存在を広報するためのホームページを作成し、実現につなげるための後押しをした。
- 参加者数: 3名 受入起業家登録者数: 7名
- 効果1: 参加者は、主にレディースあきんど塾の受講生だった。そのため知識を学んだ上でのインターンシップとなり、より理解を深めることができ、自身の起業に向けた課題等を具体化することができた。
- 効果2: 参加報告から「集客も大事だが、周知も大事」「相談できる人、協力者を見つけることの大切さ」などの学びや、「やりたいことやターゲットを絞り込み、計画を立てる。滞ったら援助機関等に相談し、ストップしたままにしない。」「目標達成のためにはまず動くこと!」など、具体的なアドバイスが得られたことが報告された。
- ホームページ

「起業されたい方必見! 八尾市内で活躍する女性起業家たちのご紹介」にて受入起業家からのメッセージを紹介。



事業の概要

八尾の自分らしい輝き方応援プロジェクト

キャリア教育と男女共同参画推進事業（DAISUKI八尾！若者ワークショップ）

■対象者：市内の中学校・高校に通う生徒

■概要：若者ワークショップで将来を思い描くことを通じて男女共同参画の重要性を学び、社会的・職業的自立に向けての基盤となる能力や態度を育てる一助とした。

■連携：国立大学法人大阪教育大学

教員養成課程 家政教育講座

准教授 小崎 恭弘氏

「男女共同参画推進にかかる教育・研究等活動に関する協定書」を締結。

■参加者：25名（中学生13名、高校生12名）

■効果1：ライフデザインシートを作成しながら、大学生をファシリテーターとするグループワークにより、活発な意見交換が行われ、性別にかかわらず自由に未来を描くことの大切さを実感できるワークショップとなった。

■効果2：取り組みの成果をリーフレットにまとめることで、ワークショップで出された参加者の意見を広く発信するとともに、若い世代の男女共同参画についての意識を今後の施策展開に活かすことができるものとした。

